

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

二〇一九年度入試問題

国語

第三回（二月二日午後実施）



二〇一九年度

入学試験問題

(二月二日午後)

国語

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙十ページ、解答用紙二枚を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 金属を圧延して加工する。
- (2) 横綱から金星をあげる。
- (3) 外資を取り扱う会社。
- (4) 暑さも盛りをこえた。
- (5) 新興国が注目を集める。
- (6) 発電所をイセツする。
- (7) 星がはつきりとカンソクできる。
- (8) 優勝コウホの選手。
- (9) 仲間をヒキいて旅に出る。
- (10) 大勢の人が参加するシキテン。

二

次の(1)～(5)の各文の【 】にあてはまる語の組み合わせとして最もふさわしいものを、あとのア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 私【 】向けて先生【 】理科【 】質問【 】した。

(2) 明日【 】スポーツ大会【 】雨【 】予報で中止【 】なった。

(3) 夢【 】までみた遠足【 】来週【 】金曜日【 】おこなわれる。

(4) 友達【 】二人で近所【 】スーパー【 】買い物【 】行く。

(5) 私【 】大切【 】育てたあさがお【 】昨日花【 】咲かせた。

ア の・は・の・に イ に・が・の・を ウ と・の・へ・に
 エ が・に・が・を オ に・が・の・に

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

セカイデハヤクハチオクニンノヒトビトガエイヨウブソクニオチイッテイル

イッポウデタバスギヤエイヨウノトリスギガモンダイニナッテイマス。マタセ

カイゼンタイノヒトビトニトッテジュウブンナシヨクリヨウガセイサンサレテ

イルニモカカワラズタバモノヲカウコトガデキズエイヨウガタリナイヒトガオ

オクイルクニギヤクニアマッタタバモノヲマイニチタイリヨウニステテイルク

ニガソンザイシテイマス。

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上省略した部分があります。)

(A) という言葉がある。

見るからに強そうなものが強いとは限らない。柔らかく見えるものが強いことがあるかもしれないのである。

昆虫学者として有名なファーブルは、(B) 『ファーブル植物記』もしたためている。その植物記のなかで、ヨシとカシの木の物語が出てくる。

ヨシは水辺に生える細い草である。ヨシは突風に倒れそうになったカシの木にこう語りかける。カシはいかにも立派な大木だ。しかし、ヨシはカシに向かってこう語りかける。

「私はあなたほど風が怖くない。折れないように身をかがめるからね」

日本には「柳に風」ということわざがある。カシのような大木は頑強だが、強風が来たときには持ちこたえずに折れてしまう。ところが、細くて弱そうに見える柳の枝は風になびいて折れることはない。弱そうに見えるヨシが、強い風で折れてしまったという話は聞かない。柔らかく外からの力をかわすことは、強情に力くらべをするよりもずっと強いのである。

柔らかいことが強いということは、若い読者の方にはわかりにくいかも知れない。正面から風を受け止めて、それでも負けないことこそが、本当の強さである。ヨシのように強い力になびくことは、ずるい生き方だと若い皆さんは思うことだろう。

しかし、風が吹くこともまた自然の節理である。風は風で吹き抜けなければならぬ。自然の力に逆らうよりも、自然に従って自分を活かすことが大切である。

この自然を受け入れられる「柔らかさこそ」が、本当の強さなのである。

オオバコは、柔らかさと硬さを併せ持って、踏まれに強い構造をしている。

しかし、オオバコのすごいところは、踏まれに対して強いというだけではない。

オオバコの種子は、雨などの水に濡れるとゼリー状の粘着液を出して膨張する。そして、人間の靴や動物の足にくっついて、種子が運ばれるようになってるのである。オオバコの学名は *Plantago*。これは、(C) という意味である。タンポポが風に乗せて種子を運ぶように、オオバコは踏まれることで、種子を運ぶのである。

よく、道に沿ってどこまでもオオバコが生えているようすを見かけるが、それは、種子が車のタイヤなどについて広がっているからなのだ。

こうなると、オオバコにとつて踏まれることは、耐えることでも、克服すべきことでもない。もはや踏まれないと困るくらいまでに、踏まれることを利用しているのである。

「逆境をプラスに変える」というと、「物事を良い方向に変えよう」というポジティブシンキングを思い出す人も知らない。

しかし、雑草の戦略は、そんな気休めのものではない。

たとえば、雑草が生えるような場所は、草刈りされたり、耕されたりする。ふつうに考えれば、草刈りや耕起は、植物にとっては生存を危ぶまれるような大事件である。しかし、雑草は違う。草刈りや耕起をして、茎がちぎれちぎれに切断されしまうと、ちぎれた断片の一つ一つが根を出し、新たな芽を出して再生する。つまり、ちぎれちぎれになったことによって、雑草は増えてしまうのである。

また、きれいに草むしりをしたつもりでも、しばらくすると、一斉に雑草が芽を出してくることもある。じつは、地面の下には、膨大な雑草の種子が芽を出すチャンスを伺っている。一般に種子は、暗いところで発芽をする性質を持っているものが多いが、雑草の種子は光が当たると芽を出すものが多い。

草むしりをして、土がひっくり返されると、土の中に光が差し込む。光が当たるということは、ライバルとなる他の雑草が取り除かれたという合図でもある。そのため、地面の下の雑草の種子は、チャンス到来とばかりに我先にと芽を出し始めるのである。

こうして、きれいに草取りをしたと思っても、それを合図にたくさんの雑草の種子が芽を出して、結果的に雑草が増えてしまうのである。

草刈りや草むしりは、雑草を除去するための作業だから、雑草の生存にとつては逆境だが、雑草はそれを逆手に取って、増殖してしまうのである。何というしつこい存在なのだろう。

小さな雑草の中には、春先に花を咲かせることが多い。

しかし、春に花を咲かせるためには、必要なことがある。それは冬の間も葉を広げるということである。春に花を咲かせる植物たちは、寒い冬の間も葉を広げている。そして、光合成で得た栄養分を、蓄えていくのだ。

寒い冬に、霜に当たりながら、葉を広げることは植物にとって簡単なことではない。本当は温かな土の中で種子で眠っていた方が、ずっと安全である。しかし、春になって地面の下で眠っていた種子たちが起きだすころには、冬の間も葉を広げていた小さな雑草たちは、蓄えた栄養分で一気に花を咲かせる。そして、他の植物が伸びる前に、さっさと種子を残してしまうのである。

まだ肌寒い中に花を咲かせている小さな野の花に、私たちは春の訪れを感じる。しかし、私たちに春の訪れを感じさせてくれる野の花たちは、必ず、冬の間も葉を広げていた者たちである。

これらの植物にとって、冬は耐える季節ではない。強い植物が土の中で眠っている冬という季節があるからこそ、彼らは花を咲かせ、成功することができる。

もし、一年中、暖かで快適な気候だったとしたら、小さな野の花たちが花を咲かせることはできなかつたかも知れない。そうだとすれば、寒い冬は、春に咲く小さな野の花にとって、不可欠なものであるとも言える。そして、冬の寒さこそが成功のために味方なのである。

「ピンチはチャンス」という言葉がある。逆境を逆手に取って利用する雑草の成功を見れば、その言葉は説得力を持って私たちに響いてくることだろう。

ピンチとチャンスは同じ顔をしているのである。

生きていく限り、全ての生命は、何度となく困難な逆境に直面する。雑草は自ら逆境の多い場所を選んだ植物である。しかし、逆境のまったくない環境などあるのだろうか。雑草がこれだけ広くはびこっているのを見れば、自然界は逆境であふれていることがわかるだろう。

逆境に生きるのは雑草ばかりではない。私たちの人生にも逆境に出くわす場面は無数にある。そんな時、私たちは道ばたにひっそりと花をつける雑草の姿に、自らの人生を照らし合わせてセンチメンタルになるかもしれない。しかし、雑草は逆境にこそ生きる道を選んだ植物である。そして逆境に生きる知恵を進化させた植物である。

踏まれても踏まれても立ち上がる。

これが、多くの人が雑草に対して抱く一般的なイメージだろう。人々は、踏まれても負けずに立ち上がる雑草の生き方に、自らの人生を重ね合わせて、勇気付けられる。

しかし、実際には違う。雑草は踏まれたら立ち上がらない。確かに一度や二度、踏まれたくらいなら、雑草は立ち上がってくるが、何度も踏まれれば、雑草はやがて立ち上がらなくなるのである。

④ 雑草魂^{だまし}というには、あまりにも情けないと思うかも知れないが、そうではない。

そもそも、どうして立ち上がらなければならないのだろうか。

雑草にとって、もっとも重要なことは何だろうか。それは、花を咲かせて種子を残すことにある。そうであるとすれば、踏まれても踏まれても立ち上がるという無駄なことにエネルギーを使うよりも、踏まれながらどうやって種子を残そうかと考える方が、ずっと合理的である。だから、雑草は踏まれながらも、最大限のエネルギーを使って、花を咲かせ、確実に種子を残すのである。まさに「変えてはいけないもの」がわかっているのだろう。努力の方向を間違えることはないのだ。

踏まれても踏まれても立ち上がるという根性論^{じしょう}よりも、⑤ 雑草の生き方はずっとしたたかなのである。

(稲垣 栄洋『植物はなぜ動かないのか』より)

問一 本文中には次の一文が抜けています。どこに入りますか。直前の十字を抜き出して答えなさい。

もっと具体的に、逆境を利用して成功するのである。

問一 本文中の（ A ）にはあることわざが入ります。次のア～エの中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えさい。

ア 「木を見て森を見ず」

イ 「柔よく剛を制す」

ウ 「鉄は熱いうちに打て」

エ 「案ずるより産むが易し」

問二 本文中の（ B ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まさか イ じつは ウ ところが エ もしくは

問四 —— 線部①「本当の強さ」とありますが、筆者は植物にとつての本当の強さとは、どのようなことだと考えていますか。本文中から最もふさわしい部分を十四字で抜き出して答えなさい。

問五 本文中の（ C ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雨に濡れる

イ 風に乗せる

ウ ゼリーが膨らむ

エ 足の裏で運ぶ

問六

—— 線部②「結果的に雑草が増えてしまう」とありますが、どういうことですか。そのことを説明した次の文章の

1

から

3

にあてはまる言葉を、それぞれ指定の字数で本文中から抜き出して答えなさい。

多くの種子が

1 【五字】

で発芽する性質を持っているのに対して、雑草は

2 【五字】

と発芽する性質があ

るので、土が、

3 【八字】

瞬間こそが増殖のチャンスになっているということ。

問七

—— 線部③「冬の寒さこそが成功のために味方なのである」とありますが、なぜ味方といえるのですか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の植物が寒さから身を守るため眠^{ねむ}っていてくれるので、種子を残すことが出来るから。
イ 寒い冬の間の光は光合成をしやすく、それを浴びることで春に一気に花を咲^さかせることが出来るから。
ウ 冬に外で葉を広げるとはとても厳しいが、その寒さを乗り越^こえなければ立派な花を咲かせられないから。
エ 一年中穏^{おだ}やかで暖かな気候では植物が成長することが出来ず、もちろん種子も残すことが出来ないから。

問八

—— 線部④「雑草魂^{だまし魂}」とありますが、それは何ですか。説明しなさい。

問九

—— 線部⑤「雑草の生き方はずっとしたたかなのである」とありますが、雑草が生存するために身に付けた生き方とはどのようなものだと筆者は述べていますか。「から。」に続くように、本文中から十四字で抜き出して答えなさい。

() から。

問十

~~~~~ 線部「まさに『変えてはいけけないもの』がわかっているのだろう」とありますが、あなたにとって「変えてはいけけないもの」は何ですか。その理由とともに、二百字以内で書きなさい。

|      |  |  |
|------|--|--|
| 受験番号 |  |  |
|      |  |  |

|    |  |
|----|--|
| 氏名 |  |
|    |  |

|    |  |
|----|--|
| 得点 |  |
| *  |  |

\*印のことは、何も記入しないでください。

|     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (9) | (10) |
| り   |     |     |     |     |     |     |     |     |      |
|     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |

|    |   |
|----|---|
| 小計 | 一 |
| *  |   |

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|     |     |     |     |     |

|    |   |
|----|---|
| 小計 | 二 |
| *  |   |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

三

二

一



|      |  |  |
|------|--|--|
| 受験番号 |  |  |
|      |  |  |

|    |  |
|----|--|
| 氏名 |  |
|    |  |

\*印のところは、何も記入しないでください。

|    |  |
|----|--|
| 得点 |  |
| *  |  |

一

|     |       |     |      |      |    |     |     |
|-----|-------|-----|------|------|----|-----|-----|
| (1) | あつえん  | (2) | きんぼし | (3)  | がし | (4) | さかり |
| (5) | しんこうく | (6) | 移設   | (7)  | 観測 |     |     |
| (8) | 候補    | (9) | 率    | (10) | 式典 |     |     |

二

|     |   |     |   |     |   |     |   |     |   |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|
| (1) | イ | (2) | ア | (3) | オ | (4) | ウ | (5) | エ |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|

三

|       |   |      |     |    |    |      |     |     |     |     |     |     |     |    |   |   |    |    |    |     |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|-------|---|------|-----|----|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|---|---|----|----|----|-----|----|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 世界では、 | 約 | 八億人の | 人々が | 栄養 | 不足 | におちい | つてい | る一方 | で、食 | べすぎ | や栄養 | のとり | すぎが | 問題 | に | な | つて | いま | す。 | また、 | 世界 | 全 | 体 | の | 人々 | にと | つて | 十 | 分 | な | 食 | り | よ | う | が | 生 | 産 | さ | れ | て | い | る | に | も | か | か | わ | ら | ず、 | 食 | べ | 物 | を | 買 | う | こ | と | が | で | き | が | ず、 | 栄 | 養 | が | 足 | り | な | い | 人 | が | 多 | く | い | る | 国 | 、 | 逆 | に | 余 | っ | た | 食 | べ | 物 | を | 毎 | 日 | 大 | 量 | に | 捨 | て | て | い | る | 国 | が | 存 | 在 | し | て | い | ま | す。 |
|-------|---|------|-----|----|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|---|---|----|----|----|-----|----|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|

|    |    |
|----|----|
| 小計 | 20 |
| *  |    |

各2点×5

|    |    |
|----|----|
| 小計 | 10 |
| *  |    |

各1点×10

|    |    |
|----|----|
| 小計 | 10 |
| *  |    |

